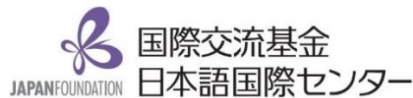


JF 日本語教育スタンダード

Part I JF 日本語教育スタンダードとは？

目標： JF 日本語教育スタンダードの^{かいはつりねん}開発理念と^{とくちょう}特徴を理解する



1. 言語教育におけるスタンダードとは？

次の質問に答えてください。-----

① あなたは、自分のクラスのレベルについてほかの人に説明するとき、どんな言い方

をしていますか。



② その説明は、他の学校や他の国の先生、日本語教師ではない人が聞いてもわかると

思いますか。



「JF 日本語教育スタンダード」(略称 JF スタンダード)は、国や^{きかん}機関を^こ超えて、広い

^{はんい}範囲で使える^{きじゆん}基準(スタンダード)として作られました。JF スタンダードは言語教育の

^{わくぐ}枠組みや^{めやす}目安を提供するものです。^{こうそくりよく}拘束力をもつものではありませんが、世界中で広

^{きょうゆう}く共有することで^{りべんせい}利便性を大きく^{はつき}発揮します。

〈タスク 1〉 JF 日本語教育スタンダードには次のような利便性^{リベンせい}があります。この利便性を具体的に説明しているものを abc から選んで () に書いてください。

- ① 共通参照枠^{きょうつうさんしやうわく}としての利便性 ()
 - ② 汎言語的利便性^{はんげんごてき} ()
 - ③ 共有^{きやうゆう}がもたらす利便性 ()
- a 他言語^{たげんご}とも同じ枠組み^{わくぐみ}、基準^{きじゆん}で説明できる
 - b 日本語運用力^{うんようりよく}を客観的^{きゃっかんてき}、具体的に^{ぐたいてき}説明できる
 - c 違う国や学校の教師^{こうし}とでも、同じ基準^{きじゆん}で学習目標^{がくしゆきあう}や到達度^{とうたつど}について話し合える

JF スタンダードは、「相互理解^{そうごりかい}のための日本語」の教え方^{ひょうか}、学び方、評価のし方を考えるためのツールです。教師と学習者だけでなく日本語教育に関係する人たちみんなで、共有して使うものです。

また、JF スタンダードは CEFR という、ヨーロッパの言語教育の共通基盤^{きやうつうきばん}となっている考え方を参考にして作られています。CEFR は様々な言語に対応できるものなので、世界中で利用されています。ですから、JF スタンダードが CEFR の教育方法を取りこむことで、日本語教育はほかの多くの外国語教育と枠組みを共有できるのです。

このような「多言語^{たげんご}のなかの一つとしての日本語」という考え方は、国や民族に限らず、

私たちが相互のコミュニケーションや理解のために使う道具のひとつとして、日本語の価値をグローバルにとらえたものです。それは、日本語教育を外国語教育の一つとして認識し、より広い視野で教育実践と研究を進める上でも重要です。

〈タスク 2〉 JF 日本語教育スタンダードのウェブサイトを見てみましょう。

<https://www.jfstandard.jp/standard/ja/render.do>

2. JF 日本語教育スタンダードと相互理解のための日本語

現代社会において、考え方や生き方が違う相手を理解する、あるいは自分を理解してもらう、人間同士の相互理解の重要性がますます高まっています。JF スタンダードの理念である「相互理解のための日本語」とは、「ある場や領域で特定の課題を共同で遂行するための日本語」のことを言います。

そして、私たちが相互理解を深めていくためには、課題遂行能力と異文化理解能力が必要です。この二つの能力は、それぞれ「ことば」と「文化」と言いかえることもできます。

両者は関連し合いながら発達していきます。

〈タスク 3〉 下の文は、相互理解のための日本語についての説明です。

() に適当なことばを選んでください。

相互理解のための日本語とは国籍や民族こくせき みんぞくに関係なく、①() だれもが、だれかと
 ②()、コミュニティや職場しよくば、学校、家庭などのいろいろな ③() で、そのとき
 その場所、場面にあった ④() を使って、コミュニケーションをする、ということです。
 このときに使う日本語を使う力を、⑤() と言います。
 また、日本人だけでなく、⑥() 言語・文化的背景はいけいを持った人同士が日本語でコミ
 ュニケーションすることで、自分とはちがう言語や ⑦() にふれる機会えを得ます。そ
 して、物事のいろいろな見方ができる ⑧() が育ち、⑨() を持つようになり
 ます。それは、ほかの人の文化を理解し尊重そんちようする、⑩() です。
 このように、私たちが相互理解を深めていくためには、⑤() と ⑩() が必要
 です。

- a 課題遂行能力かだいすいこうのうりよく b 異文化理解能力いぶんかりかいのうりよく c ことば d 文化 e 日本語を使う人
 f 場面や場所 g 広い視野しや h 新しい視点してん i 多様なたよう j いっしょに

3. JF 日本語教育スタンダードを特徴づける4つのツール

日本語教育の実践^{じっせん}を行いやすくするために、JF スタンダードは JF スタンダードの木、6つのレベル、Can-do、ポートフォリオ^{ていきょう}を提供しています。これら4つは、日本語の教え方、学び方^{ひょうか}、評価^{せつげい}のし方を理解し、実践するためのツールです。4つのツールは、コースの設計^{せつけい}、授業^{じゅぎょう}の設計、評価^{せつげい}の設計 という3つの段階の内容に関連性^{かんれんせい}を持たせます。

4つのツールの活用

内容	(1) コースの設計	(2) 授業の設計	(3) 評価の設計
	<ul style="list-style-type: none"> ・コース目標 ・目標レベル 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の配置 ・学習目標 ・学習内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の時期 ・評価方法 ・評価項目 ・評価基準 ・ポートフォリオ
教材 リソース	<ul style="list-style-type: none"> ・『まるごと 日本のことばと文化』 ・『いろいろ 生活の日本語』 	<ul style="list-style-type: none"> ・JFS 授業案 ・JFS 準拠 読解教材 (みんなの教材サイト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイテスト

JF スタンダードを利用することで、一貫性^{いっかんせい}があり、効果的な教育活動を計画^{けいかく}、実施^{じっし}、評価^{せつげい}することが可能になります。みなさんの教育実践の質^{しつ}を高め、より魅力的^{みりよくてき}にするために、JF スタンダードがきっと役に立つことでしょう。

〈タスク 4〉 参考サイトリストにある JF スタンダード準拠教材やリソースのウェブサイト
を見てみましょう。

4. まとめ

〈タスク5〉 JF 日本語教育スタンダードの特徴について、()に適切なことばを選びましょう。

- ・国や教育機関を超えて広い範囲で使える日本語教育の国際的な ①()
- ・②()と共通の言語教育の枠組み
- ・理念は「③()のための日本語」
- ・「相互理解のための日本語」は ④()と ⑤()が必要
- ・4つのツールを活用して、⑥() ⑦() ⑧()の設計に一貫性のある、
質の高い教育を実現する

a 課題遂行能力 b 異文化理解能力 c 評価 d 基準 e 目標設定

f CEFR g 相互理解 h 授業

■このパートの参考文献と参考サイト

- ・JF 日本語教育スタンダードサイト

<https://www.jfstandard.jp.go.jp/top/ja/render.do>

- ・『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』

<https://www.jfstandard.jp.go.jp/publicdata/ja/render.do>

- ・みんなの Can-do サイト

<https://www.jfstandard.jp.go.jp/cando/top/ja/render.do>

- ・JF ロールプレイテスト <https://www.jfstandard.jp.go.jp/roleplay/ja/render.do>

- ・『まるごと 日本のことばと文化』サイト <https://www.marugoto.jp.go.jp/>

- ・『いろどり生活の日本語』サイト <https://www.irodori.jp.go.jp/>

- ・みんなの教材サイト <https://www.kyozai.jp.go.jp/kyozai/top/ja/render.do>

- ・JFS 教材を探す（みんなの教材サイト TOP>素材を探す>JFS 教材を探す）

<https://www.kyozai.jp.go.jp/kyozai/material/jfs/home/ja/render.do>

■Part I タスクの答え

〈タスク 1〉 ①b ②a ③c

〈タスク 3〉 ①e ②j ③f ④c ⑤a ⑥i ⑦d ⑧g ⑨h ⑩b

〈タスク 5〉 ①d ②f ③g ④a ⑤b ⑥⑦⑧ehc(順不同)